

# 南幌高校

## ～魅力ある学校づくり～

### 社会に通用する18歳を目指して！

町内唯一の道立高等学校の南幌高校。その歴史は古く、約60年前に遡ります。昭和33年に幌向高等学校として開校し、昭和53年に道立に移管され、歴史ある学び舎を卒業した生徒は3千人以上を数えました。現在は、全校生徒43人と生徒数が減少しましたが、「社会に通用する18歳」を大きな目標として、日々魅力ある学校づくりに取り組んでいます。



## 地域との交流

毎年、5月下旬になると各町内会では、マリーゴールドなどの花苗を主要道路の沿道に植栽していますが、今年度南幌高校でも、ボランティア精神と地域愛を育む目的で全校生徒と周辺住民約70人が、学校前の歩道沿いや校内の花壇に花の苗450本を植えました。これまでも、同校正門前や校内の花壇には植えていましたが、今年は、歩道約150mへと広げました。周辺住民と一緒に植栽する事で、地域の中の高校として学校づくりに取り組んでいます。(写真右下)

9月、町内の農業青年が中心となり、まちの活性化を狙ったイベント「野祭」が開催されました。野菜の還元販売、トラクターとの綱引き、餅つき体験などが催され、今年は千人以上の人たちが来場されました。そ

のイベントに南幌高校の軽音楽部の生徒が自慢の歌声と演奏を披露し、会場を大いに盛り上げました。野祭を企画・実行する「農猿」のメンバーからの呼びかけで、今回初めて参加となりました。地域の方の応援もあり、沢山の人の交流が図られました。

(写真右上)



10月には、今年で15回目を迎えるキャベッジマラソン大会が開催され、まちのイベントとして定着しています。このイベントのきっかけは、「高校内で行われていたマラソン大会をまちの人たちに見てもらい、小・中学生や地域の人たちにも参加してもらおうことで、全町のマラソン大会とするのはどうだろう」との発想から始まりました。キャベッジマラソンと命名したのも当時の生徒会役員で、今や老若男女、200人近くの選手が稲穂の育つ田園を駆け抜けます。運営スタッフも南幌高校の教職員を筆頭に各種団体の協力を得て、交流を深めながら実施しています。



その他、町内除雪ボランティア活動や、幼稚園（保育所）、福祉施設等での家庭科授業としての取り組み、南幌養護学校との授業交流、中学校との公開授業や特別授業などでの交流も行っています。まちとの交流を深める中で、地域に開かれた高校として、日々取り組んでいます。

詳細は学校ホームページ [<http://www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp/>] にも掲載されています。

## 進路選択

高校生にとって進路選択は避けて通れない関門です。将来、自分の希望を叶えるには、どういったことが必要かを考えて選択しなければなりません。南幌高校では、進路別ガイダンスを年に数回にわたり開催し、進路選択を指導しています。ガイダンスは、進学コースと就職コースにブースが別れ、大学や専門学校、企業の担当者がそれぞれ学校や企業の特徴を高校生に説明します。高校生も自身の将来を決めるとあって真剣な眼差しで担当者の説明に聞き入っています。時には、担任の先生とも話をしながら、アドバイスを受けていました。

その他にも、町内12の事業所の協力を得て2日間インターンシップ（就業体験・再体験・予備体験）を行っており、教職員も進学・就職と多様な生徒の進路希望に対応できる体制を整えています。



## 校長より

南幌高校は「社会に通用する18歳」の育成を大きな目標として、学校経営を進めています。かつての生徒数からみると大きく減少しましたが、小規模校ならではのきめ細かな学習指導や行き届いた個別指導を行っています。生徒数が減少したことで、経済的な負担もありますが、そういった面で町からご支援をいただいていることは大変ありがたいと思っています。特に、資格取得のための検定料の補助や大学、専門学校への進学のための補助は、就職するにおいても、進学するにおいても親の経済的負担の軽減になっています。その他にも3年に一度の海外研修をはじめ、入学祝い金、通学費補助などあらゆる面でご支援をいただいております。家庭の経済状況にかかわらず、安心して通学できる環境が充実しています。

本校としても、地域の方々との交流をさらに深め、地域と共にある高校として、これからも魅力ある学校づくりをしていきたいと考えますので、今後ともぜひ、南幌町民の皆様からのお力添えをよろしくお願いいたします。